

## 学外研修報告

### －中国四国地区技術職員研修会への参加報告－

工作部門 林 祐太

#### 1.はじめに（目的等）

国立大学の技術職員として職務遂行に必要な基本的、一般的知識および新たな専門知識、技術を習得し、職員としての資質の向上を図ること、他大学等の技術職員と業務等に関する情報を交換・共有し交流を深めることを目的とし本研修に参加した。

#### 2.期間・場所

期間：平成 29 年 8 月 30 日 ～ 平成 29 年 9 月 1 日（3 日間）

場所：山口大学 常盤キャンパス,宇部工業高等専門学校（山口県 宇部市）

#### 3.参加者等

39名（広島大学：共通機器部門3名，工作部門2名）

#### 4.研修内容

全体講義として1日目に「国立大学法人山口大学の現状、そしてこれから」「山口大学技術職員組織の全学化に向けた取組み」「宇宙利用のすすめ！」の3件、3日目に「国際宇宙ステーション・「きぼう」日本実験棟初の燃焼実験「Group Combustion」」「マイクロコンピュータを用いた空気圧アクチュエータの制御」「技術系職員として知っておきたい知的財産の基礎知識」の3件を聴講した。2日目は分野別講習が行われ、分野別研修は機械系分野（3区分）と情報系分

野（2区分）に分かれており、その内、機械系分野の「汎用旋盤を用いた実技指導および工作実習」を受講した。

## 5.まとめと感想

全体講義は、大学運営の視点から大学職員のあり方を考える組織マネジメントに関する話と教員の研究に関する講話があった。本学でも言われるが、やはり如何に“協働”して効率的に業務に当たり質の高い支援を実施できるかを考えていく必要性を強く考える機会となった。また、山口大学の特色である知財に関して技術系職員の持つべき基礎知識や思考・姿勢を学ぶことができた。

分野別研修では厚生労働省が認可している山口マイスターを講師とした講義・実習を受講し、大学という枠に縛られず企業での技術者のあり方や技術者教育についてという観点も踏まえた実技講習を考える機械になり、興味深い内容を学ぶことができた。

また、全体を通して他大学の技術職員から業務での体験談を聞くなど交流もしっかりと出来て、非常に有意義な研修であった。